

八ヶ岳

2019年7月27日(土)～29日(月)

硫黄岳～横岳～赤岳～阿弥陀岳



(赤岳山頂)

1日目(7/27) ～赤岳鉱泉(泊)

台風6号の接近にもめげず、0さん運転の与謝山の会、八ヶ岳山行バスは順調にスタート。途中、由良川・賤ヶ岳・諏訪湖(昼食)・恵那峡などにて休憩後、昼には美濃戸口に到着。バスの中では、やや強い雨と台風上陸の知らせに心配したが、愛知県に入った頃は一旦小康状態となり、歩き始めた時は止んでくれてホッとした。それのもつかの間、1時間程経った所でまた降り出し、レインウェアを装着。本日泊りの赤岳鉱泉には、ほぼ順調に午後4時頃到着。すると間もなく土砂降りの雨に、歩行中でなくて『ああ良かった』と皆にっこり！早速山荘でくつろいだ後、とても熱い風呂で湯加減を調整しながら汗を流し、「土曜はいつもステーキ」という夕食にあずかり、雷の音と光と雨のすごさに明日を心配しながら、午後8時前には男性群ほぼ皆さんお休みになりました。

(I本.M 記)



2日目(7/28) 赤岳鉱泉～赤岳頂上山荘(泊)

6時30分 赤岳鉱泉の宿を出発。曇り空、穏やかな林の中に行く。ジョウゴ沢を渡ると、道は樹林帯の中のジグザグの急登となる。途中カッパを着たり脱いだりする。1時間30分位歩



(出発前/赤岳鉱泉)

くと、森林限界が来て木が低くなる。飛び出した所が、赤岩の頭の頂上直下の平坦地。稜線に出ると風が強いし、ガスで何も見えない。

8時31分 広々とした平坦な硫黄岳の頂上に着く。東面は火口があるらしいが、ガスでわからない。

時おり晴れて、周りの山々が見えたが、すぐにガスの中。ケルンを見つけながら歩く。広い山頂から、山荘の建つ大ダルミに向けて緩やかに下って行く。小雨模様で風も強い。硫黄岳山荘のお姉さんから、『中に入って休んで下さい』とありがたいお言葉をいただき、ほっこりしましたが、トイレ休憩だけで先を急ぎました。しかし風が強い。硫黄岳過ぎて辺りが砂礫になると、右に左にコマクサの群落。よくぞこんな厳しい所にと、皆さん歓声をあげながら歩く。霧に濡れて一段と美しい。ここから核心部、鎖、ハシゴ、ナイフリッジと続く。“プチ、北アルプスの大キレット”らしい。

プチ？ 鎖、ハシゴ、ナイフリッジが全て約5m。

9時54分 台座ノ頭が過ぎた頃から、岩稜帯とクサリがあらわれる。

10時07分 横岳の主峰奥の院へは、カニの横ばいで。目の前の岩と足場に注意しながら、慎重に進んでいると、私の裏から、『カニの横ばいもう終わり』などと余裕でぬかす若い綺麗なお姉さん。おいおい、ガスで何も見えないけどここは2800mの天空の世界。足場の下は崖で切れ落ちてるよ。

10時45分 三叉峰辺りは広い稜線だったり、西面は高度感のある岩場、東面はハイマツ帯と何度も横断する。そこからも、鉾岳の登りはクサリ、二十三峰は30mのハシゴ下りと岩稜帯が続き、足場の狭い所が連続してあり気が抜けない。

12時05分~40分 悪路を過ぎれば、地藏の頭の方岐点。そこには赤い帽子と赤い前だれのお地藏さんが、登山者の安全を見守っていた。時



(硫黄岳頂上)



(コマクサ)



(横岳頂上)



(横岳からの下り/左前方赤岳、中央中岳、右阿弥陀岳)

おりガスがとれ、下界の嶺峰が青々と美しい。上を見れば赤い山肌に赤岳天望荘と赤岳が見えた。後もう少し。赤岳鉱泉の宿で注文した中華おこわのちまきのお昼ご飯を、赤岳天望荘で食べる。天候はガスがとれたり、すぐにまいたり目まぐるしくかわる。さあここから、赤岳への最後の登りの頑張りどころ。クサリ有り、岩場の急登で四つん這い。転倒、滑落、落石に注意しながら気を抜かず慎重に登る。今日の宿、赤岳頂上山荘が建つ北峰に着く。すぐ隣の南峰の最高点、2899mへ荷物を置いて向かう。



(地蔵の頭)



(チシマギキョウ)

(キバナシャクナゲ)

(ミヤマキンバイ)

(ミヤマオダマキ)

(ミネウスユキソウ)

13時23分 赤岳、全員登頂出来ました。ばんざーい!!

八ヶ岳の最高峰なので、南アルプス、富士山までぐる~っと360°見えると言う。うーん、どの方向じゃあ~。今回は残念、ガスの中でした。明日に期待しよう。お花も黄花シャクナゲが、ずっと楽しませてくれました。アルプスの女王、コマクサももちろんのこと。ひよろ長い茎に黄色い小さ目の花、ミヤマキンポウゲ。小柄で花弁の縁にハートの切れ込みがある、ミヤマキンバイ。ゴゼンタチバナ、イワツメクサ、ピンクのジャコウソウ。紫のチシマギキョウ。ウスユキソウは5種類ほど

あり、ここのはミネウスユキソウ。

いっぱいお花も咲いていて、霧の中生き生きとしていました。とても良い時でした。役員さん、皆さんありがとうございました。御座いました。

(Y岡 記)



(赤岳頂上)

3日目(7/29) 赤岳頂上山荘～阿弥陀岳～

朝食後赤岳頂上山荘を 6:28 にスタートしました。ガレたジグザクの斜面を慎重に進みました。また登りになり、中岳頂上に到達しました。素晴らしいです。



(中岳山頂)



(行者小屋から望む赤岳、中岳)

また、下ります。中岳のコルに来てザックを置き空身で阿弥陀岳に登ります。すぐに梯子がありました。なかなかの岩場です。8:18 阿弥陀岳頂上に達しました。やはり感動です。中岳のコルに戻りザックを担ぎ行者小屋に向かいます。後はほぼ下りのみです。林の中に入ると緩やかになってきました。そして行者小屋へ9:54 到着しました。

たくさんの方が登ってきています。今までの縦走した赤岳、中岳、阿弥陀岳が見えます。素晴らしいです。休憩し10:18再度出発しました。南沢を河原歩きです。美濃戸山荘に12:39に着きました。さすが、下界に近づきアブにたかられました。そこらよいよいよ美濃戸口に向かいます。13:40 美濃戸口に到着し、今回の山行が全て無事に終わりました。最高の山行でした。

(Y本.R 記)



(無事下山を終えて/美濃戸口)

バスコースタイム

(往路)

峰山庁舎 (4 : 56)
わーくぱる (5 : 18)
岩滝庁舎 (5 : 40)
道の駅宮津 (5 : 52)
宮津 ICBS (5 : 57)
由良川 PA(6:15)
賤ヶ岳 SA (7 : 52)
恵那峡 SA (9 : 42)
諏訪 SA (10 : 56~11 : 30)
美濃戸ロバス停 (12 : 01)



(復路)

美濃戸ロバス停 (13 : 54)
温泉 (14 : 02~14 : 40)
賤ヶ岳 SA (18 : 53~19 : 09)
宮津 ICBS (20 : 52)
道の駅宮津 (20 : 59)
岩滝庁舎 (21 : 19)
わーくぱる (21 : 21)
峰山庁舎 (21 : 44)



山行コースタイム

27日 美濃戸ロ～北沢・南沢分岐～堰堤広場～赤岳鉱泉
12:35 13:45 14:35 15:55

28日 赤岳鉱泉～赤岩の頭～硫黄岳頂上～硫黄岳山荘～横岳頂上～三叉峰～
6:30 8:10 8:35 9:10~9:30 10:25 10:45
地蔵の頭～赤岳天望荘～赤岳頂上山荘～赤岳頂上
12:00 12:10~12:40 13:30 13:35

29日 赤岳頂上山荘～文三郎尾根分岐～中岳頂上～中岳のコル～阿弥陀岳頂上～
6:30 7:05 7:35 7:45 8:20
中岳のコル～行者小屋～北沢・南沢分岐～美濃戸ロ
9:00 9:55~10:15 12:40 14:40



(赤岳から阿弥陀岳へ)

八ヶ岳山行感想文



(赤岳頂上へ/眼下には赤岳天望荘)

2年越しの八ヶ岳、無事に歩ききることができ大満足です。

苔の森、シラビソの新芽、コマクサの群生、足元に咲くチシマギキョウ、イワベンケイ、ゴゼンタチバナ、キバナシャクヤクなどなど、高山植物はもちろんのこと、岩稜歩き、クサリ場やハシゴ、足元の切れ落ちた斜面、緊張しながらも楽しむことができました。

稜線から赤岳鉱泉や行者小屋を見下ろした時、逆に阿弥陀岳からの下りで前日からその日歩いてきた稜線を眺めた時、あんな所から、あんな所を歩いてきたと感激でした。

また、赤岳鉱泉のステーキと温泉に、赤岳頂上山荘でのおしゃべり会やハー

モニカ伴奏での合唱はグループならではの感激しました。

2年前の燕岳・常念岳登山山行では、燕岳の急登で息があがってしまい持久力・体力不足を実感しましたが、今回は何とかついて行くことができ、過重トレーニングの成果かなと少し自信になりました。

と言っても、「誰かツェルトが持てる人」と言われても応えることのできない、自分の荷物だけで精一杯の私なので、昨年の赤赤トレイル踏破の時、「自信にはなるけれど過信しないように」とSさんに言われたことや、行者小屋の看板「山をなめんなよ」を肝に銘じ、それなりのトレーニングを積みながら、今後の山行を楽しみたいなと思いを新たにしました。

皆さん、楽しい3日間ありがとうございました。(S田)



(ステーキ！赤岳鉱泉)



(ガスの中/硫黄岳)

久しぶりの山行、それも山小屋泊の山行に参加させていただきました。台風の進路方向へ行ったにもかかわらず、雨でカッパを着たのは1日目の30分くらいだけなんてとてもラッキー、岩場が多かったので緊張の連続でしたが、思ったより濡れてなかったのでこれもラッキー、コマクサもちょうど見頃の時期に大群落を見ることができたり、といろんな幸運が重なったような気がしました。そして何よりも、お世話になった役員の方、参加者の皆さんのおかげで、一人だったら乗り越えられないだろう岩場もなんと

か進むことができ、しんどいときがあっても歩くことができました。山登りって本当に団体種目なんだと思える山行でした。皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。これからもひとつでも多くの山に登りたいと思います。これからもよろしくお願いします。

(I塚)



(カッパも着て/赤岳鉱泉へ)

昨年台風の影響で中止となった八ヶ岳。今年は大丈夫だと思っていましたが、またしても台風 10 号の動きを気にしながらの山行となりました。2 日目の午前中ぐらいまでは雨を覚悟していましたが、初日の美濃戸口から赤岳鉱泉の道中で少し降った程度でしたが、赤岳鉱泉に着くなり激しい雨となりました。夜 10 時頃目が覚めると雨と風の音がすごくて、ずっと起きていましたが、2 時半頃には雨風もおさまり台風の影響も通り過ぎたのが確認できました。

2 日目は雨の心配はないが風が少し強いようだ。今日は硫黄岳から赤岳への縦走です。途中トイレが綺麗と言う硫黄岳山荘に冷やかしがてら立ち寄り。確かに綺麗なトイレでした。地図にはその先にコマクサの群落と書いてあるがあまり気にせず歩いていると、いきなり群落が現れてその広さに「凄い」の言葉しか出ませんでした。コマクサと言えば白馬岳かと思っていましたが、問題にならない位のスケールというか、面積の広さでした。赤岳までの道は思っていた以上に岩場もあり、中々楽しめました。

3 日目は赤岳からのいきなりの岩場の急な下りで、他の団体さんもいて停滞ぎみ。鞍部まで下り阿弥陀岳へ登り返す。思っていた以上の岩山でした。後は行者小屋を経て南沢で美濃戸に下った訳ですが、帰りの下りがつらい時がありますが、今回何処で標高を下げているのだろうと思うくらい、急な下りも無く無事に美濃戸口へ帰りました。

今回の山行で私の良かった事は、去年のリベンジが出来た事、台風の影響を避けられた事、思っていた以上に岩場歩きが出来た事、コマクサの大群落に感動した事、等々たくさんあって楽しい山行となりました。(H石)



台風が心配された中での山行は、前回、硫黄岳からの赤岳がとても遠く感じられたり、横岳の縦走が厳しかった印象があったので、好天に恵まれたのはとても有り難かった。赤岳から阿弥陀岳経由の下りも想像以上に厳しく、もし雨の中の山行であったなら、コース変更など余儀なくさせられたことと思う。無事行者小屋に辿り着いたときにはホッとしたが、小屋の「山なめんなよ」の看板が目突き刺さってきた。コマクサの群落や、雨の後だったためか、南沢の林の中の苔がとても美しく、印象に残っている。赤岳の大きさを改めて感じさせられた。

(S垣)



(硫黄岳方面/赤岳頂上山荘から)



(山なめんなよ/行者小屋にて)